広告 企画・制作／読売新聞社ビジネス局

がん治療の発展を目指す

公益財団法人ＳＧＨ財団による第37回ＳＧＨがん研究助成金授与式、第７回ＳＧＨがん看護研究助成金授与式、第23回ＳＧＨ特別賞・ＳＧＨ看護特別賞授賞式が12月６日、ホテルグランヴィア京都（京都市下京区）で開催された。会場では、がんの基礎、臨床研究に顕著な功績をあげた２人に特別賞、がん看護に関する先駆的な研究・実践を行った個人と団体に看護特別賞がそれぞれ授与され、賞状と賞金、ブロンズ像が贈呈された。また、若手研究者の育成を目的に、がんに関する優れた基礎および臨床研究に贈られるがん研究助成が25人に、看護実践の発展に寄与することを目的に、がん看護についての優れた研究並びに臨床における新たな取り組みを対象とする看護研究助成が12人に贈られた。各選考委員らからは独創的な研究・実践に称賛と期待の声が寄せられた。

SGH財団 公益財団法人ＳＧＨ財団は、国際的で活力ある社会の創造に向け、多面的かつ幅広く社会活動に寄与することを目的として、教育・文化、医療・福祉、経済・産業等の振興・発展を図るための研究及び事業への助成等を行っています。

あいさつ

がん研究の後押しを

栗和田 榮一 氏 公益財団法人 ＳＧＨ財団理事長

国民の命と健康を守るという大きな使命の下、高い倫理観を持って医療に携わられている皆様のご努力により、がん医療は目覚ましい進歩を遂げています。治療成績の向上によって、がんになっても学業や仕事との両立が可能となり、尊厳を持って生きることができる地域共生社会の実現で、生活の質の向上を目指す取り組みも行われております。

当財団のがん研究振興事業は1989年、がんに関する研究に助成を行ったことに始まります。2008年度には、顕著な功績をあげられた方を表彰するSGH特別賞とSGH看護特別賞を設け、19年度から、がん看護研究への助成も始めました。当財団は今後も微力ながら、がん研究の進歩・発展に寄与してまいります。

第23回SGH看護特別賞授賞式

特定非営利活動法人ホスピスケア研究会
代表者 **關本 翌子** 氏
特定非営利活動法人ホスピスケア研究会 理事長

がんサバイバーのサポート・グループ（SG）に参加することにより得られる看護師の効果

当研究会は1987年、がん終末期の患者様とその家族に、より良いケアを届けたいという思いから設立されました。

94年に始まった「がんを知って歩む会」は、米国のプログラムを日本の文化に合わせて発展させたもので、患者様とその家族が対話を通して「がんとの“つきあい方”」を見つけていくサポートプログラムです。サポート・グループ（SG）の本質は、メンバー同士の相互支援を通じて、本来その人がもっている力や選択する力が引き出されていくプロセスにあります。看護師グループの自律性を尊重しながら、促進者・調整者として心理的・社会的支援を担って参ました。人の力を信じ、その力を引き出すという看護の本質そのものが、SGの理念と深く響き合っています。

本研究は、「がんを知って歩む会」にスタッフとして関わった看護師の体験を可視化し、SGの継続的発展と看護師自身の成長につながる要素を明らかにします。この研究が今後のがん看護実践や人材育成に貢献できれば幸いです。

大阪医科薬科大学看護学部 教授・学部長
鈴木 久美 氏

乳がん啓発教育プログラムの開発とその有効性・有用性に関する研究

日本では年間約10万人の女性が乳がんと診断されています。診断技術や治療法の進歩により治療成績は著しく向上していますが、検診受診率はOECD諸国の中で依然として低いままです。乳がんと診断された女性の約半数が、自分で乳がんを見つけて受診に至っている現状は、乳がんに関する知識の啓発とともに、自分の乳房に関心を向ける「ブレスト・ヘルスリテラシー（アウェアネス）」の概念を基にした教育的介入の重要性を示しています。

私は2009年から乳がん体験者の方々と対話を重ね、啓発教育プログラムの開発に取り組んでまいりました。対象を子育て期の女性にとどまらず成人女性へと広げ、意識の向上や受診行動の促進という成果を得ています。近年は思春期の女子生徒とその母親に対して、親子の相互作用を生かすことで、予防や検診行動を促す可能性を見いだしています。

今後も乳がんのセルフケア教育を実践しながら研究を継続し、より多くの女性の健康に寄与できるよう尽力してまいります。

乳がん 啓発プログラム実践

患者とその家族をサポート

【第７回ＳＧＨがん看護研究助成金受領者代表】
三次 真理 氏 上智大学総合人間科学部看護学科 教授

困難を抱えるがん患者への寄り添いのケアの創出をめざした急性期病棟のアクションリサーチ

思うように治療が進まず、苦しんでおられるがん患者様に、寄り添いのケアを実践できるように、急性期病棟の看護師グループと研究者グループとで協働しています。アクションリサーチとは、実践と研究と理論を結んで現場に変化を生み出していく手法であり、それぞれの看護師が自ら願うケアを言語化し、それを形にしていくという能動的な取り組みを重視しています。この過程を通して新しいケアを生み出すだけでなく、一人一人が自分の大切にしている看護に気付き、その力を生かす手段を体得していくこと、それが看護の喜びとなって病棟全体に波及することを願っています。

第23回SGH特別賞授賞式

溝脇 尚志 氏
京都大学大学院医学研究科放射線腫瘍学・画像応用治療学 教授

革新的高精度画像誘導放射線外部照射装置および照射技術の研究開発と臨床展開

医師として、歩み出した当時の放射線治療は、単純な照射計画しかできず、正常な臓器をできるだけ避けながらの病巣に対して十分な線量を投与できないことが多いという課題がありました。研究を続ける中、留学先で当時まだ日本に導入されていなかったコンピュータ制御による先進の「強度変調放射線治療」の経験を積んで帰国したところ、京都大学において、当時の主任教授・平岡眞寛先生が、産学連携での国産放射線治療装置開発プロジェクトを立ち上げられ、参画する機会を得ました。放射線治療装置や画像診断装置が国産から欧米産に置き換わっていく現状を目の当たりにしておりましたので、やりがいを感じながら国産装置の開発と新機能開発に取り組んできました。

2軸同時回転下で照射でき、リアルタイムで腫瘍の動きを把握しつつ追尾照射できる機能を備えた本装置は、現在でも世界に誇れるものです。2軸同時回転での強度変調放射線治療法はさらに改良を加え、本装置の標準的な照射法として多くの施設で活用されています。

がん放射線治療の成績を改善し、国産の放射線治療技術を残していきたいという思いで頑張ってきた我々に、今回の受賞は非常に励みとなります。さらに研究開発を加速させてまいります。

放射線 新機能を開発

第23回SGHがん研究助成金授与式

河野 隆志 氏
国立がん研究センター がんゲノム情報管理センター センター長

新規ドライバーグリティの発見・開発・実装によるがんゲノム医療の推進

がんの治療標的となり得る遺伝子変異の発見や、そのような遺伝子変異を効率良く検出できる診断薬を作ることに取り組んでまいました。

前者では、「RET融合遺伝子」が肺がんの原因になっていることを発見し、治療標的にしました。その後、国立がん研究センター東病院の臨床医グループと協力し、肺がんでRET融合遺伝子がある場合、薬剤を保険で使える承認を21年に得ました。

後者では検査薬とともに、国内初の遺伝子パネル検査「NCCオンコパネル」の開発と、その保険適用を果たしました。

ゲノム医療の活性化

18年の薬事承認以来、約1万人の方が検査を受けています。うち約3000人に遺伝子変異に合った治療薬の投与を含む治療方針が示され、約750人に推奨薬剤が投与されています。

23年にがんゲノム情報管理センターのセンター長を拝命してからは、遺伝子パネル検査で得られたデータを約150の研究グループに、活用いただき、薬剤の保険適用範囲が広がるなどの成果が出ています。

多くの方々に助けられながら、研究を推進することができました。これからも日本のみならず、世界のがんゲノム医療の活性化に取り組んでまいります。

第37回SGHがん研究助成金授与式

氏名／所属研究機関等	研究課題
秋山 弘樹氏 東京科学大学病院 血液内科 特任助教	造血幹細胞およびB白血病幹細胞における脂肪酸代謝の役割の解明と、新規抗白血病幹細胞治療標的としての可能性の検討
池田 英樹氏 千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学 特任助教	ミトコンドリアＤＮＡ動態が紡ぐ老化発がん機構の解明
市村 敦彦氏 立命館大学薬学部統合生理学研究室 准教授（研究室主宰者）	がん悪液質を引き起こす新規単球サプセットにおける細胞内 Ca^{2+} シグナルの解明
尾池 貴洋氏 群馬大学重粒子線医学推進機構重粒子線医学研究センター 教授	独自開発放射線感受性データベースを用いた新規放射線治療増感標的の探索
北嶋 俊輔氏 公益財団法人がん研究会がんプレシジョン医療研究センターがん免疫制御プロジェクト プロジェクトリーダー	紡錘体形成阻害に伴う免疫原性核酸の発生機構解明およびがん治療への応用
栗本 遼太氏 千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学講座 特任講師	ｍＲＮＡ修飾に基づく翻訳出力不均一性の可視化とがん治療標的化技術の開発
迫田 哲平氏 九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科 助教	ＣＲＨＢＰを標的とした寛解期急性骨髄性白血病幹細胞治療抵抗性の克服に向けた分子基盤の解明
佐々木 豪氏 三重大学医学部附属病院腎泌尿器外科 講師	前立腺癌における癌関連線維芽細胞遺伝子発現プロファイリングの人種間差異に着目した去勢抵抗性獲得メカニズムの解明
佐藤 和秀氏 名古屋大学大学院医学系研究科 特任講師	がん治療モダリティ細胞死の分子機序解明と基盤構築
住吉 崇幸氏 京都大学医学部附属病院泌尿器科 助教	腫瘍組織の分子生物学的解析に基づいた転移性前立腺癌のクローン進化の解明とプレシジョン医療の実現
高瀬 翔平氏 国立がん研究センター研究所がん治療学研究分野 研究員	膵臓がんにおけるＳＭＡＤ４欠損と代謝経路阻害の合成致死的作用機構の解明
高橋 重成氏 京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻分子生物化学分野 教授	がん細胞の“逃避戦略”を断つ：酸化ストレスに着目した転移阻止の新機軸
田口 和浩氏 広島大学病院消化器・移植外科 助教	直腸癌に対する放射線療法のアブスコパル効果に関する構渡し的検証と免疫機構の解明
玉井 望雅氏 東京大学医科学研究所新領域治療研究センター 幹細胞分子医学分野 特任助教	ＨｅＨ－ＡＬＬの新規疾患モデルの樹立と病態解明を目指した研究
長谷 拓明氏 大阪大学大学院薬学研究科再生適応学分野（生命薬学領域） 助教	ＲＮＡ代謝産物ｍ６，６Ａが担うがん免疫逃避機構の解明
波多江 龍亮氏 九州大学大学院医学研究院脳神経外科学 助教	神経膠腫における骨髄系細胞の代謝制御による免疫療法の新戦略
平田 祐介氏 東北大学大学院薬学研究科衛生化学分野 准教授	フェロトーシス感受性のヒト特異的な制御機構の解明とそのがん治療への応用
松井 崇浩氏 大阪大学大学院医学研究科病態病理学・病理診断科 准教授	組織常在性マクロファージの形質変化に着目した早期がん検出の研究
丸山 和晃氏 三重大学大学院医学系研究科修復再生病理学 助教（研究科内講師）	リンパ微機能制御による腫瘍免疫活性化と転移抑制を目指した治療法開発に関する研究
水谷 知裕氏 東京科学大学大学院医歯学総合研究科消化器病態学分野 講師	循環腫瘍細胞由来オルガノイドによる転移性大腸癌の病態解明
宮本 大輔氏 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科移植・消化器外科学 助教	オルガノイド融合に伴う希少性小腸癌モデルを用いた新たな癌薬物療法の確立
明神 悠太氏 大阪大学医学部附属病院消化器内科 医員	肝細胞癌の免疫微小環境におけるＧＤＦ 15を介した細胞間相互作用の解明
牟田 優氏 京都大学大学院医学研究科消化器内科学 特定助教	細胞内βカテニン分解誘導技術を活用した大腸癌進展メカニズムの解明
森脇 健太氏 広島大学大学院医系科学研究科医化学教室 教授	がん細胞死抵抗性の克服に基づく新規複合がん免疫療法の開発
吉田 遼平氏 旭川医科大学内科学講座呼吸器・脳神経内科学分野 客員講師	免疫療法抵抗性肺がんに対する新規治療戦略の創出

（50音順）

第７回ＳＧＨがん看護研究助成金授与式

（50音順）

【第37回ＳＧＨがん研究助成金受領者代表】
森脇 健太 氏 広島大学大学院医系科学研究科医化学教室 教授

がん細胞死抵抗性の克服に基づく新規複合がん免疫療法の開発

ネクロシス（壊死）と呼ばれる細胞死を長年研究する中で、細胞死に対する抵抗性を獲得し、がん免疫療法が効かなくなったがん細胞について、その抵抗性の分子基盤を明らかにし、新たな治療戦略へとつなげていく研究に取り組んでいます。がん研究を推進していくためには、基礎と臨床、また幅広い専門性と広い視野が必要であると感じています。本研究助成をいただけたことは、研究費のご支援にとどまらず、様々な背景を持つがん研究者の方々とネットワークを構築できる機会をいただけたという点においても、大変貴重なご支援と感じております。

公益財団法人SGH財団 第24回市民公開講座

命を守る選択、未来につなぐ がん医療

～乳がん、卵巣がん、子宮がんの最新治療と妊より性温存～

がん治療進歩の最新知識とともに、一人ひとりの状況に合わせた適切な方法を紹介します

令和8年 3月1日（日） 13:00開演（15:45閉演予定）

※オンライン配信のため、会場での開催はございません。

オンライン視聴 無料（要事前申込）

申込締切 2月24日（火）

講演

乳がん治療の最近の進歩 ～一人ひとりに最も適した治療を～
京都大学大学院医学研究科 乳腺外科学教授 増田 慎三 氏

知っておきたい卵巣がん ～治療と予防の最新情報～
大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学教授 小玉 美智子 氏

子宮がん（頸がん・体がん）最前線 ～予防から治療まで～
金沢大学医薬保健研究域医学系産科婦人科学教授 安彦 郁 氏

妊より性温存とその選択肢 ～がん・生殖医療の最新の話題～
聖マリアンナ医科大学 産科婦人科学主任教授 鈴木 直 氏

パネルディスカッション

パネリスト 増田 慎三 氏 小玉 美智子 氏 安彦 郁 氏 鈴木 直 氏

モデレーター 小西 郁生 氏 平岡 眞寛 氏

コーディネーター 京都大学名誉教授 京都医療センター名誉院長 小西 郁生 氏
京都大学名誉教授 宇治徳洲会病院顧問 平岡 眞寛 氏

司会 フリーアナウンサー 植月 百枝 氏

オンライン視聴（インターネット配信）

右記QRコード®、下記サイトで、オンライン視聴の受付をいたします。
https://sgh-lect24.com/

受付が完了した方には、ご登録いただいたメールアドレスにご視聴用URLをお送りいたします。お問い合わせ、お申し込みいただいた個人情報は、本件以外には使用いたしません。オンライン視聴にかかる通信料は参加者様にてご負担ください。

お問い合わせ先：公益財団法人SGH財団「市民公開講座」係 TEL：075-334-8757 10時～17時（土・日・祝日を除く）
事務局メールアドレス：info@sgh-lect24.com
※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

公益財団法人SGH財団 〒600-8009 京都市下京区烏丸通七条下ル9階 TEL：075-255-9310 FAX：075-255-9311
e-mail：info_cr@sgh-foundation.or.jp URL：https://www.sgh-foundation.or.jp

SGH財団 検索

主催：公益財団法人SGH財団 後援：公益財団法人日本対がん協会 協力：SGホールディングスグループ